

Title	懷徳堂研究会
Author(s)	竹田, 健二
Citation	中国研究集刊. 2015, 61, p. 7-12
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/58694">https://doi.org/10.18910/58694</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

〔研究会通信〕

## 懷徳堂研究会

竹田健二

### 一、懷徳堂研究会の創設

懷徳堂研究会は、江戸時代の大阪において百四十年余り活動した漢学の学校・懷徳堂に関する研究、及び明治末以降の懷徳堂顕彰運動によって再建された重建懷徳堂に関する研究に取り組み、共同研究組織である。

本会の創立は、二〇〇一年（平成一三年）五月に行われた大阪大学創立七十周年記念事業と深く関わっている。大阪大学は、緒方洪庵の蘭学塾・適塾と懷徳堂とをその源流として位置づけることから、記念事業の一環として、最新のデジタル技術によって懷徳堂と適塾とを再構築する「バーチャル適塾・懷徳堂」を作成・公開することとなった。そこで二〇〇〇年（平成一二年）四月、

大阪大学の湯浅邦弘教授は、懷徳堂研究の実績を持つ大阪大学中国哲学研究室の関係者を組織して懷徳堂研究会を立ち上げ、「バーチャル懷徳堂」のデジタルコンテンツ作成を開始した。これが本会発足の発端である。

懷徳堂に関する貴重資料は、大阪大学附属図書館の懷徳堂文庫に多数収蔵されている。本会のメンバーは、分担して懷徳堂文庫の資料を実見調査し、その成果を踏まえて約百点の解題を執筆した。またいくつかの文献については全文テキスト化を行い、あわせて「懷徳堂年表」・「懷徳堂事典」等も作成した。こうして、「バーチャル懷徳堂」のデジタルコンテンツの一環として、懷徳堂データベース（「新建懷徳堂」と称した）が完成したのである。

「バーチャル懷徳堂」のデジタルコンテンツは、もと

もとスタンドアロンを前提に作成されていた。そこで、懐徳堂関係のデジタルコンテンツにインターネットでアクセスできるようにすることを主な目的として、日本学術振興会の科学研究費補助金基盤研究（A）（2）「デジタルコンテンツとしての懐徳堂研究」（研究代表者下條真司大阪大学サイバーメディアセンター教授、二〇〇一―二〇〇四年）が開始された。本会のメンバーが研究分担者・研究協力者としてこの研究に参加し、懐徳堂データベースのコンテンツを約三百点に拡充した。また『懐徳堂文庫図書目録』（大阪大学文学部編、一九七六年）を電子情報化し、更に修訂・補遺について共同で行うことができるようにした『懐徳堂文庫電子図書目録』の作成・公開に伴って、その具体的な修訂・補遺作業等にも取り組んだ。こうして二〇〇四年二月に公開されたのが、「W E B 懐徳堂」(<http://kaiikudo.jp/index.html>)である。「W E B 懐徳堂」は、その後も新たなコンテンツを次々と加え、今日に至っている。

以上のように、懐徳堂研究会はその創設以来、懐徳堂関係のデジタルコンテンツ作成を中心として活動してきたが、同時にメンバーそれぞれは、デジタルコンテンツ作成作業で得た様々な新たな知見に基づき、懐徳堂や重建懐徳堂に関する研究を推進した。そしてその成果を懐

徳堂研究会の研究会合において発表し、更に学会での口頭発表や論文執筆へと発展させた。

## 二、「儒蔵」プロジェクト

二〇〇六年（平成一八年）、湯浅教授は財団法人東学会理事の戸川芳郎氏から依頼を受け、「儒蔵」日本編纂委員会委員となった。「儒蔵」とは、北京大学など中国の約二十五の大学や研究機関が連携して推進している、儒学に関連する教典を網羅しようとする大事業である。この「儒蔵」の中に日本に現存する漢籍も含まれることとなり、日本編纂委員会が設立され、湯浅教授は中井履軒の『大学雜議』・『中庸逢原』・『論語逢原』・『孟子逢原』の原稿執筆を依頼されたのである。

湯浅教授は懐徳堂研究会関係者に協力を依頼し、メンバーは分担して原稿の執筆に当たった。詳細については、湯浅邦弘「蘇る懐徳堂四書―「儒蔵」編纂事業について」（『懐徳堂センター報』二〇〇九、大阪大学大学院文学研究科・文学部・懐徳堂センター）を参照されたい。

なお、『大学雜議』・『中庸逢原』・『論語逢原』・『孟子逢原』の原稿は既に完成し、中国側に提出済みであり、

近く刊行される予定である。

### 三、懷徳堂の総合的研究

二〇一三年（平成二五年）、竹田を研究代表者とする日本学術振興会の科学研究費補助金基盤研究（B）「懷徳堂の総合的研究」が採択された。この研究は、懷徳堂と重建懷徳堂とを、中絶を挟みながらも連続する一つの学校として位置付けた上で、（1）懷徳堂・重建懷徳堂の学問について、総合的な資料調査を基盤とした実証的説明を行うこと、（2）懷徳堂・重建懷徳堂の学問を中心として、近世以降の大阪における儒教の展開の全容を説明すること、（3）大阪における儒教が日本の儒教史において占める位置を説明することを目的とする。懷徳堂研究会のメンバーのほとんどが研究分担者・研究協力者・連携研究者として研究組織に加わっている。この共同研究の採択に伴い、本会の代表は竹田が引き継いだ。現在の本会の活動の中心は、年四回定期的に開催する研究会合である。メンバーは懷徳堂関係資料の調査に精神的に取り組むと共に、それぞれが分担する課題について研究に取り組む、その成果を研究会合において発表し、参加者全員によって討議を行っている。メンバー各

自はその討議を踏まえて更に研究を進め、学会での口頭発表や論文執筆を行っている。

この共同研究は、懷徳堂関係資料のデジタルアーカイブ化の推進をも目的としており、既に懷徳堂文庫の『論語問書』を「WEB懷徳堂」の新たなコンテンツとして組み入れた。他に既に撮影済みの資料もあり、また懷徳堂文庫以外の貴重資料の撮影等についても準備を進めている。

現在、本会のメンバーは、湯浅邦弘（大阪大学大学院教授）、寺門日出男（都留文科大学教授）、藤居岳人（阿南工業高等専門学校教授）、湯城吉信（大阪府立工業高等専門学校教授）、矢羽野隆男（四天王寺大学教授）、池田光子（財団法人懷徳堂記念会研究員）、中村未来（大阪大学助教）、福田一也（懷徳堂研究センター非常勤職員）、杉山一也（岐阜経済大学准教授）、久米裕子（京都産業大学准教授）、清水洋子（福山大学専任講師）、草野友子（京都産業大学特約講師）、佐野大介（台湾・明道大学助理教授）、黒田秀教（台湾・明道大学助理教授）、前川正名（台湾・高雄餐旅大学助理教授）、代表者の竹田健二（島根大学教授）である（敬称略）。

この他に懷徳堂研究会発足時からのメンバーとして、岸田知子教授（中央大学）がおられ、「懷徳堂の総合的

研究」にも分担者として加わってくださったのだが、本年三月一二日に急逝された。長く懷徳堂・日本漢学の研究に取り組んでおられた岸田教授は、本会の中心のメンバーであり、筆者もこれまで研究会合等において貴重な御助言や御指導を何度も頂戴してきた。本会のメンバー一同、岸田教授の学恩に報いるべく、一層研究に励む所存である。

本会の事務局は大阪大学中国哲学研究室である。なお、研究会合には、正規のメンバーの他に、大阪大学中国哲学研究室の学生が参加し、研究発表を行うこともある。

最近の活動の一端として、この一年間の研究会合における研究発表者とその題目を以下に示す。なお、題目の下に\*を付したものは、大阪大学中国哲学研究室の学生の発表である。

○通算第一八回(二〇一四年一月二二日)

- ・ 桃島雅弘「中井履軒『述龍篇』と八陣解釈」\*
- ・ 池田光子「(新取資料)尾藤二洲宛書簡について」
- ・ 草野友子「懷徳堂文庫所蔵『管子纂詁』書き入れの初步的整理」
- ・ 竹田健二「西村天囚の懷徳堂研究と五井蘭洲関係資

料」

○通算第一九回(二〇一五年三月二七日)

- ・ 久米裕子「中井履軒『通語』について」
  - ・ 竹田健二「西村天囚の五井蘭洲研究と『懷徳堂記録』」
  - ・ 佐藤由隆「『蘭洲遺稿』の他氏批評から見る五井蘭洲の学問観」\*
  - ・ 寺門日出男「五井蘭洲『非伊編』について」
- 通算第二〇回(二〇一五年六月六日)
- ・ 湯城吉信「五井蘭洲「中庸天命性図」の復元を試みる」
  - ・ 黒田秀教「儒者のやまところ——中華論より萬世一系論へ——」
  - ・ 湯浅邦弘「人類の文化遺産「板木」のデジタルアーカイブ」
  - ・ 矢羽野隆男「西村天囚の楚辞研究——日本楚辞学の基礎的研究」の一環として——
- 通算第二一回(二〇一五年八月二二日)
- ・ 佐藤由隆「消された格物致知論——自筆本『質疑篇』と『質疑疑文』——」\*
  - ・ 寺門日出男「五井蘭洲『非伊編』について」
  - ・ 中村未来「中井竹山・履軒の『尚書』注釈——今古文解釈を中心に——」



2014年3月26日の研究会合にて（2枚とも）

・竹田健二「東京大学史料編纂所の所蔵する懷徳堂関係資料について」

本会及び研究会のメンバーによる一連の研究活動の成果のうち、紙媒体として発表された主なものを以下に示す。なお、個人の発表した論文は多数に及ぶため割愛した。

- ・『懷徳堂事典』（湯浅邦弘編、大阪大学出版会、二〇〇一年十二月）
- ・『懷徳堂データベース全コンテンツ』（湯浅邦弘編、大阪大学大学院文学研究科紀要』第四二巻―二、二〇〇二年三月）
- ・『懷徳堂文庫の研究』（湯浅邦弘編、大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書、二〇〇三年二月）
- ・『デジタルコンテンツとしての懷徳堂研究』（科学研究費補助基金基盤研究（A）（2）研究成果報告書、課題番号一三三〇九〇一一、研究代表者下條真司大阪大学サイバーメディアセンター教授、二〇〇四年三月）
- ・『懷徳堂文庫の研究二〇〇五』（湯浅邦弘編、大阪大学大学院文学研究科共同研究報告書、二〇〇五年二月）
- ・『懷徳堂の歴史を読む』（湯浅邦弘・竹田健二編著、大阪大学出版会、二〇〇五年三月）

・『懷徳堂研究』（湯浅邦弘編、汲古書院、二〇〇七年一月）：日本学術振興会平成一九年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）による。

・『墨の道 印の宇宙―懷徳堂の美と学問―』（湯浅邦弘、大阪大学出版会、二〇〇八年十二月）

・『江戸時代の親孝行』（湯浅邦弘編著、大阪大学出版会、二〇〇九年二月）

・『市民大学の誕生―大坂学問所懷徳堂の再興―』（竹田健二、大阪大学出版会、二〇一〇年二月）

・『漢学と洋学―伝統と新知識のはざままで―』（岸田知子、大阪大学出版会、二〇一〇年九月）